





Catch the dream!

どちらも高品質なものを提供すれ漁師直送の鮮魚へのこだわりも。 し、「この鶏で勝負したい」と心で出合った地鶏の美味しさに刮目 軒を営む。料理の道を志したのは、プンし、現在はスタイルの違う3 に決めた。また対馬市出身のため、 所に立って 両親が共働きで子どもの頃から台 まな業態の店で修業を重ね、東京 いた経験から。 さまざ

> て開業、温かな雰囲気と満足度の通りから隠れた古民家を改装し 信に満ちていたと振り返る。ば「負けるはずがない」とい

その中で個性を発揮

まった。4 業の準備をスター 業の準備をスタート。こちらはら1年後には『警固 ふるや』開 さんの を稼ぐことではなく を主軸に、接待や記念日利用にも とスタッフが集まってきた。 さんの人となりや考え方に、自然いく仲間を作ること。そんな古里 『鶏と肴 フルヤ』のオープンか 仕事の第一の目的はお金 お酒と楽しむコー への評判は日増しに高 共に生きて - ス料理

た存在感を放っている。「根拠の対応できる大人の店として、違っ

よう」。選んだのは、新鮮なホル付いた文化に新たな魅力を創造し思いを語ってくれた。「福岡に根思いを語ってくれた。「福岡に根 ここで自分たちの価値を試してみいのではないかと悩みましたが、交う商業施設という立地は合わな ルシティ博多」のグルメゾーン舞台は7月に開業した「キャナた末の決断だったそう。新しい里さんだが、3軒目の出店は迷っ 魅力。「今後は酢もつや豚串など,肩を寄せて飲む活気ある雰囲気が 店づくり、 究極の味を目指してメニュー開発 『もつ焼き ふる矢』は、人々がう信念を貫く。そうして誕生した おしゃれな空間であえて大衆的なモンを部位ごとに楽しむもつ焼き していきます」と意気込む。 「KUOHKA」だ。「人が行き 「王道こそ真実」とい

根拠なき自信で、真っ向勝負

株式会社 F-JAPAN 代表取締役

古里 優介 ಕん

1984年長崎県対馬市出身。中村調理製菓専門学校 卒業後、焼鳥店、居酒屋、旅館などで経験を積み、 2017年『鶏と肴 フルヤ』を開業、2021年『警固 ふる

福岡市博多区住吉1-2 キャナルシティ博多グラン

や』、2025年『もつ焼き ふる矢』 と展開。

ドビルB1F(KUOHKA) &092-402-4972

011:00~OS14:00/17:00~OS22:00 係な

PROFILE

苦悩をも楽しむ強さで進む

## その真ん中には、別人の心が動く場所

平尾で『鶏と肴 フルヤ』をオー

きた古里優介さん。

· 年 に

い」と真っ直ぐに思う道を進んで 「変化球は苦手、直球で挑みた

顔に、その強さを見た。もりが支えてくれる。はにかむ笑きたい」。心が揺れ動く時も、温

## 温も

素直で情に厚く、酔えば「みんなを幸せにしたい」と涙ぐむ。古なを幸せにしたい」と涙ぐむ。古里さんの愛情深さの原点は、母。誰に対しても常に優しい母から教かった「温もり」が店の基盤だ。飲食業は人と接する仕事である以上、そこには喜怒哀楽が存在する。上、そこには喜怒哀楽が存在する。上、そこから這い上がる機会だと捉えられたら、それは強みになる。 たり笑ったりしながら、進んでい無理することはないけれど、泣い

ある。「いい材料でしか、いいおれた。今でも世界唯一の継承者でされた、『ジャック』の名が刻まい・バンヌワルト氏から継承を許 びとなった。「今の自分があるの的なメンバーとの交流が大きな学 一生を懸けた仕事への誇り菓子づくりを突き詰める ナーでのディスカッションや情熱されたのだ。18年間在籍し、セミ る。菓子職人のための国際協会「ルて開業から10年目に、 転機を迎え ら菓子を見ることができた。そしフランス食文化という広い視野か 始めたことで、食事との一貫性や ある。料理の世界からキャリアをが大塚さんの菓子づくりの根底に た全ての方々のおかげ」。 は恩師、仲間、お客さま、巡り 菓子は生まれない」。師匠の言葉 レ・デセ ・ル」のメンバ ーに選出

も「この地には思い入れがある」大名店は惜しまれながら閉店するめ2010年大濠で新店舗を開店。 ビル建て替えが決まり、移転のた『ジャック』であるが、大名店のの存在を知られることとなった国内はもちろん、海外にもそ の存在を知られること国内はもちろん、海 ビル建て替えが決まり、 店を再びオ と、2017年に同じ地区で大名 ープンさせた。

ス菓子を一生、突き詰めていくつ繋げていきたい。私自身もフラン知識やご縁が役立つ場があれば、つくの展望を尋ねると「自分の みを目指し続けられる理由は、それ。第一線を走るパティシエが高その原動力は、美しいものへの憧 んな尊い気持ちにあった。 と力強く答えてくれた





今後の展望などを語っていただきます。飲食の仕事の魅力、

ドする方々に、

チの料理人を志していたという。のひとりであるが、元々はフレンえば、福岡を代表するパティシエ『ジャック』大塚良成さんとい

東京のレストランでクリスマス時

素晴らしい材料に触れることがで なったと語る。「最先端の技術やるのか」と、感動で胸が一杯に

美味しさの秘密がマジックの

**下積みと恩師との出会い** 

4時間半、辿り着いた店の煌めくフランス中心部から列車に乗ってザスの『ジャック』だったんです」。た。返事をいただいたのが、アル

スを見て「ここで働け

取材・文/生野朋子 撮影/上田晴司

術品のような美しさに魅了され、出されるアシェットデセールの芸しさの中、コースの締めくくりで期に研修を経験。想像を絶する忙

た日々を送れたと思います。」下積みがあったからこそ、充実し種明かしのように感じられました。

パティシエという専門職がある

ことを知る。福岡「シェ

クア

しが難航し、

、その間、

仙台や福岡

帰国して開業を目指す

9も物件探

で店舗立ち上げに協力。

、大名の店舗の看板に、大名の店舗の看板に上げに協力。40歳で独





私たちは 夢と希望に満ちた 福岡の飲食業界を 応援しています。

ソワニエプラスは

食に関わる人たちを応援しています。

「福岡の美味しい」を極める! 毎週木曜日更新,